

日本脳炎予防接種説明書

1 日本脳炎について

- 日本脳炎ウイルスが、脳や脊髄に感染しておこる病気です。ブタなどの動物の体内でウイルスが増え、その動物の血を吸った蚊（ツガカバカ）がヒトを刺すことによって感染します。ヒトからヒトへの感染はありません。潜伏期間は6～16日とされ、高熱、頭痛、おう吐、意識障害、けいれんなどの症状がでます。日本では過去 10 年間に 56 人が発症し、3 人が亡くなっています。
- 感染しても症状が現れない場合が多く、発症者は感染者 100～1000 人に 1 人程度と言われています。しかし、発症した場合の死亡率は 20～40%と言われ、幼少期や高齢者ではそのリスクが高くなります。脳炎のほか髄膜炎や夏かぜ様の症状で終わる人もいますが、神経の後遺症を残すことが多くあります。日本脳炎に特效薬はないため、治療の中心は対処療法となります。
- 北海道では、これまで 40 年以上発症者はなく、感染を媒介する蚊も生息していません。しかし、国内では西日本、海外でも日本脳炎ウイルスは広く分布しています。道外や海外へ行き来する機会が増えている昨今、わずかではあります但し北海道においても感染の可能性が高まっています。





2 ワクチンの効果と副反応

- ① ワクチン接種により日本脳炎への抵抗力（免疫）ができ、日本脳炎にかからないか、たとえかかっても軽く済むと報告されています。
- ② 接種後の副反応として、注射部位の発赤、腫脹（はれ）、硬結（しこり）、痛みなどがあります。注射部以外の副反応として、発熱、咳、鼻水などがあらわれることがあります。通常一時的なもので、数日で消失します。
- ③ 重い副反応としては、極めてまれにショック、アナフィラキシー様症状、けいれんなどがあらわれることがあります。

3 予防接種のスケジュール

20 歳の誕生日前日までの間に、年齢にかかわらず、「1 期」「2 期」の接種が可能

- 1 期：初回接種は、6 日以上（標準的には 6 日から 28 日まで）の間隔をおいて 2 回、追加接種は、初回接種後 6 か月以上（標準的にはおおむね 1 年）を経過した時期に 1 回。
- 2 期：1 期接種終了後、6 日以上の間隔（おおむね 5 年の間隔をあけることが望ましい）をおいて 1 回。

	1 期初回（1 回目）	1 期初回（2 回目）	1 期追加（3 回目）	2 期（4 回目）
接種回数				
標準的接種間隔	6～28 日の間隔をおいて		おおむね 1 年の間隔をおいて	
標準的接種時期	20 歳未満 ※20 歳以上で接種する場合は、任意接種（費用は自己負担）となります。			

※上記は標準的なスケジュールです。接種間隔や時期などは医師と相談してください。

4 予防接種による健康被害救済制度について

- 定期の予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障がでるような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく給付を受けることができます。
- 健康被害の程度に応じて、医療費、医療手当、障害児養育年金、障害年金、死亡一時金、葬祭料の区分があり、法律で定められた金額が支給されます。死亡一時金、葬祭料以外については、治療が終了する又は障害が治癒する期間まで支給されます。
- ただし、その健康被害が予防接種によって引き起こされたものか、別の要因（予防接種をする前あるいは後に紛れ込んだ感染症あるいは別の原因等）によるものなのかの因果関係を、予防接種・感染症医療・法律等、各分野の専門家からなる国の審査会にて審議し、予防接種によるものと認定された場合に給付を受けることができます。
- 予防接種法に基づく定期の予防接種として定められた期間を外れて接種を希望する場合、予防接種法に基づかない接種（任意接種）として取り扱われます。その接種で健康被害を受けた場合は、独立行政法人医療品医療機器総合機構法に基づく救済を受けることとなりますが、予防接種法と比べて救済の対象、額等が異なります。

※給付申請の必要が生じた場合には、診察した医師、保健所、雨竜町住民課へご相談ください。

5 接種に当たっての注意事項

予防接種の実施においては、体調の良い日に行なうことが原則です。お子様の健康状態が良好でない場合には、かかりつけ医等に相談の上、接種するか否かを決めてください。

●以下の状態の場合には予防接種を受けることができません。

- ①明らかに発熱している方（通常は37.5℃を超える場合）。
- ②重い急性疾患にかかっている方。
- ③その日に受けるワクチンに含まれる成分でアナフィラキシー（通常接種後30分以内に出現する呼吸困難や全身性のじんましんなどを伴う重いアレルギー反応のこと）をおこしたことがある方。
- ④その他、かかりつけの医師に予防接種を受けないほうがよいといわれた方。

●次の方は、接種前に医師にご相談ください。

- ①心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害などの基礎疾患のある方。
- ②過去に予防接種で接種後2日以内に発熱、全身性発疹などのアレルギーを疑う症状のみられた方。
- ③過去にけいれん（ひきつけ）をおこしたことがある方。
- ④過去に免疫状態の異常を指摘されたことがある方、近親者に先天性免疫不全症の方がいる方。
- ⑤このワクチンの成分に対してアレルギーをおこすおそれのある方。

6 接種後の注意

- ①接種後30分間は医療機関にいるなどして様子を観察するか、医師とすぐ連絡をとれるようにしておきましょう。急な副反応が、この間に起こることがまれにあります。
- ②接種後1週間は副反応に注意しましょう。接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合は、速やかに医師の診察を受けましょう。
- ③接種後は、接種部位を清潔に保ちましょう。接種当日の入浴は問題ありませんが、接種部位をこすことはやめましょう。
- ④接種当日は、激しい運動はさけてください。
- ⑤接種後、違う種類のワクチンを接種する場合には、6日以上の間隔をあける必要があります。

問い合わせ先:住民課 保健担当 電話 77-2212